

藤川三溪 （おのゑは） 水産學者、舊高松藩士。文化十一年十一月二十四日讃岐國山田郡二谷村生れ、明治二十一年十月二十一日歿（二八六―八九）。諱忠猷、字政徳・伯孝、幼名政次郎、竹藏、通稱氷馬、將監、能登。別名藤川茂徳。別號拜白樓主人、三溪漁史。初め中山城山に學ぶ。天保十一年長崎に赴き高島秋帆に蘭學と捕鯨を學んだ。安政元年門人岡本益輔（韋庵）を伴ひ蝦夷に探検行。文久二年農兵を募つて龍虎隊を組織し洋式銃陣を演習、また時事を陳言した藤川は下獄、在獄六年の間著述に専心。出獄後戊辰奥羽戦線に従軍。明治二年京都で、翌年上京して神田に私塾を開く。五年太政官御用掛、翌年小笠原島開拓及近海捕鯨の議を建白し、捕鯨會社開洋社を設立。十年修史館御用掛、十二三年千葉縣下の荒蕪地を開墾、次で「國會説」を建言。十九年上梓した『海國事務』は反對論者の買占めを遭つたといふ。翌年大日本水産學校を創立した。著述多數。

桑田透一著 （海の先覺者） 藤川三溪傳（昭和十五年十月一日水産社）がある。

